

晝表産地情報

令和4年4月25日

(株) 大地屋

【熊本】

熊本産地ではイグサ栽培の外仕事が始まり、先刈りから杭打ち、網掛けへと忙しくしています。製織の方は一旦休止するところも多く製品の出回りは半減してきました。5月の連休明けから再開すると思われますが早いところでは原草がほぼ払底した農家もあります。年々生産量が減少し産地在庫が少ないうえに昨年の不作により原草の残りも少なくこの先不足する商品もありそうです。気温の上昇と降雨も増え、全体に品質は低下傾向にあります。本間の上物やひのみどり、ひのはるかなど草質の良いものは少なくなり、また五八綿2~3等品も少なく相場も強含みでの推移となっています。この先端境期に近づくとつれて益々このような状況が強まりそうです。

【中国】

寧波地区では3月以降、30軒の工場のうちの20軒弱の工場が生産を再開しましたが、4月末でほぼ生産終了となります。残り原草は少量ですが、新草収穫後8月以降の生産に回すようです。寧波の工場の在庫は過去にない程払拭しているようで、3月からの大幅な円安進行により日本側の在庫もさばけて、また新口の高値、供給減を見越しての確保という面もあり中国側への注文も一気に増えたようです。中国側も日本側同様、年々生産量が減少し工場も激減してきたところへ、災害による作付けの大幅減が大きく響いており、これから端境期、新口に向けて在庫の確保、価格面で非常に厳しい状況が続くと思います。また現在もコロナ禍の影響で、上海、寧波港や経由地である釜山港の混乱が続いており、大幅な遅れとなって混乱に拍車をかけています。相場はさらなる円安が130円をうかがう領域となり高くなっています。

四川地区では5月中旬で生産終了する予定です。こちらドルベースの価格はすえおきですが、元々の価格が高いので円安の影響もより大きくなり、大幅な価格上昇となっています。また四川からの経由地である上海港のロックダウンもあり、大幅な到着遅れとなっています。

以上